

出雲旅行

t. k

2010年秋、会社の同期仲間で改修工事中の出雲大社見学したのですが、一同神社建築について余り知識を持っていなかったことが判明しましたので、帰ってから神社建築について多少調べたことを記します。

■ 旅行日程

第1日目：H22.10.18

「出雲大社改修工事現場」「荒神谷遺跡」
見学

第2日目：H22.10.19

「永井隆記念館」「鉄の歴史博物館」「菅谷
たたら山内」「日御崎神社」「日御崎灯台」
見学

第3日：H22.10.20

「島根県立古代出雲歴史博物館」「足立美
術館」見学

■ 出雲大社にて

改修工事の現場内を見学（残念ながら素屋根内は撮影禁止ということで記録写真なし）

以下説明を受けたことの箇条書きです。

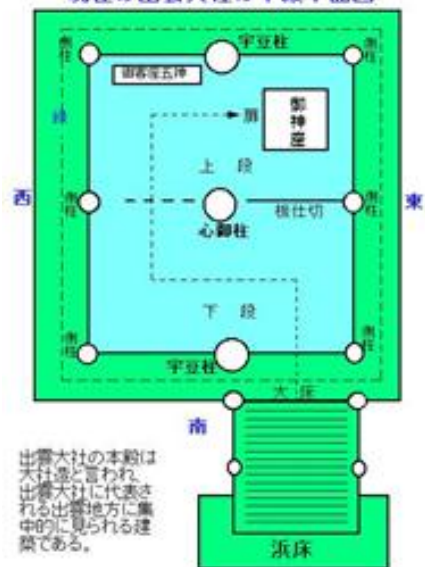
- ・ 工事範囲：本殿ほか瑞垣内の14棟の木
工事等
- ・ 工期：平成21年6月17日～平成25年3
月20日

※平成25年5月の御本殿遷座祭までに瑞垣内の工事を完了させる。

- ・ 本殿の桧皮葺き工事は別途専門業者（全
国で5社程度しかいない）
- ・ 桧皮葺には竹釘を使用（メーカーは全国
で1社のみ）



現在の出雲大社の本殿平面図



- ・ 出雲大社本殿に使用する桧皮は長さが通常より長く1.2m（通常は60cm～90cm）の物を使用
 - ① 皮は1cm程度ずつずらして重ねるので約120枚が重なることになる
 - ② 皮は樹齢120年（通常70年）程度以上のものからとる

神社についての雑知識

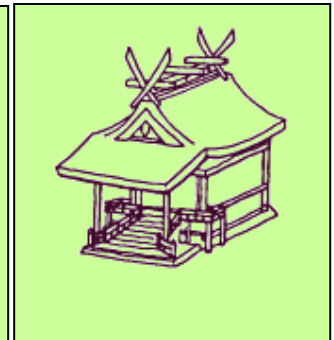
■神社建築の形式

神社の中心は本殿ですから、神社建築も**本殿の形式を本位**に何々造と呼ばれます。

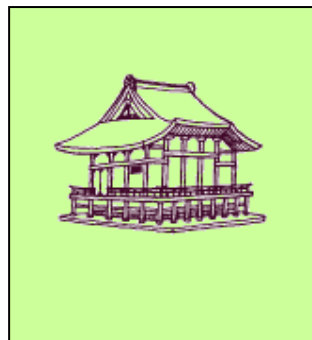
天地根元造（てんちこんげんづくり）と呼ばれる掘立小舎式のものから生まれた形式で、直線式の極めて簡素な建物です。これから現在伝わっているような直線的形式の各種のものが生まれたのですが、これらは、間取りとか出入口の関係で神明造・大社造・大鳥造・住吉造などの4つぐらいの形式に分けられます。



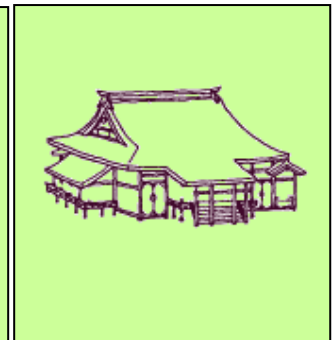
流造り
(ながれづくり)



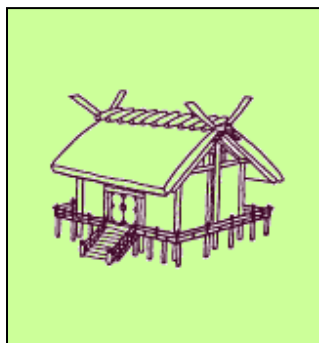
春日造り
(かすがづくり)



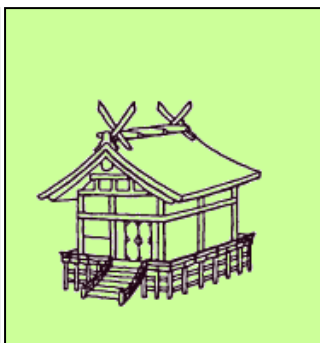
日吉造り
(ひよしづくり)



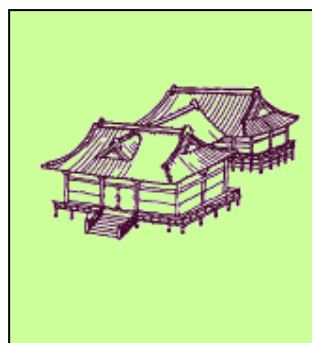
祇園造り
(ぎおんづくり)



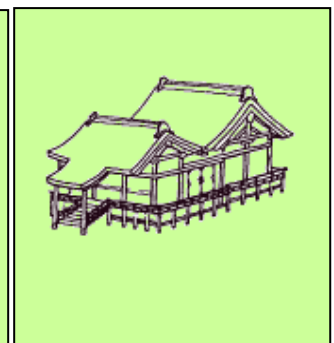
神明造り
(しんめいづくり)



大社造り
(たいしゃづくり)



権現造り
(ごんげんづくり)



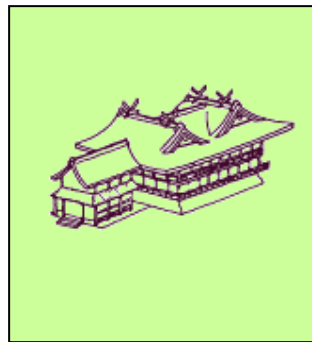
八幡造り
(やはたづくり)



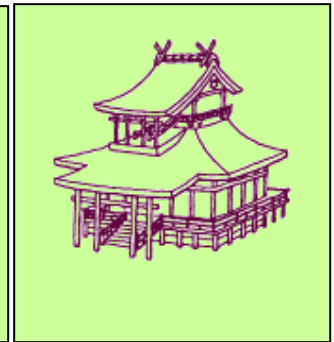
大鳥造り
(おとりづくり)



住吉造り
(すみよしづくり)



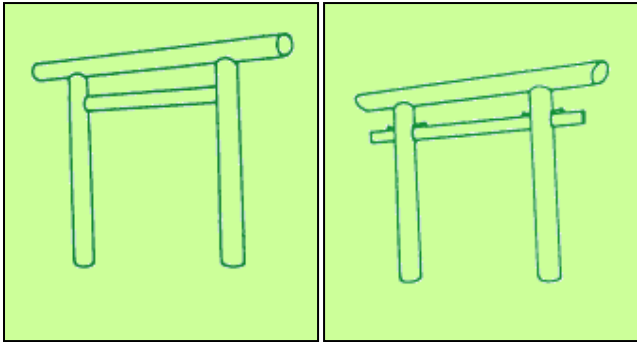
吉備津造り
(きびつづくり)



浅間造り
(せんげんづくり)

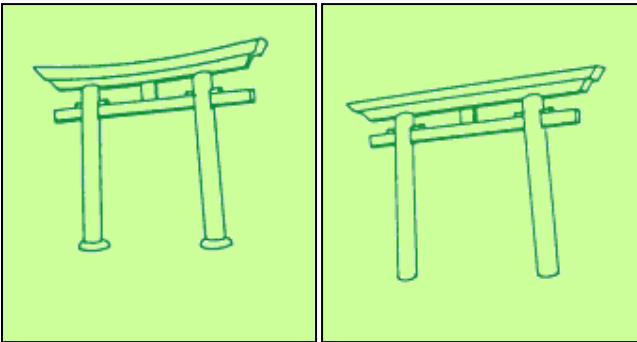
■鳥居の形式

鳥居の構造は、2本の柱を立て、最上部に笠木を置き、その下であって左右の柱を貫いている貫（ぬき）を合わせて4本の柱から成っています。この単純で純朴な形こそが、原則的な鳥居の形です。



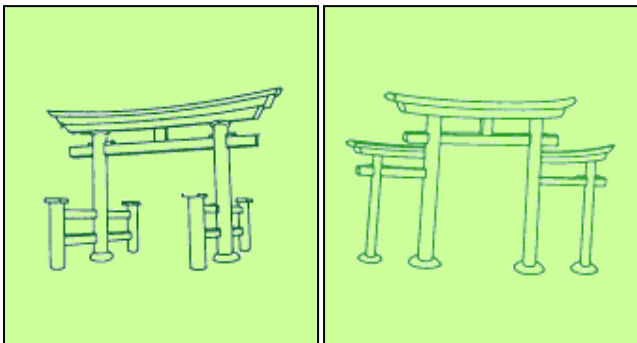
神明鳥居

鹿島鳥居



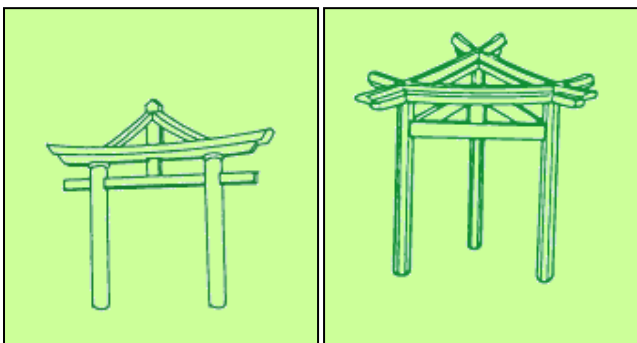
神明鳥居

八幡鳥居



神明鳥居

鹿島鳥居



神明鳥居

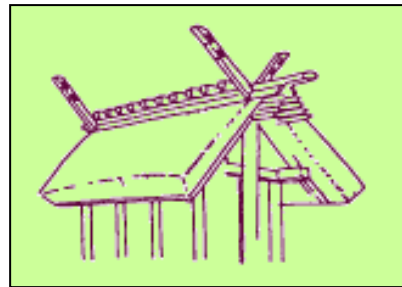
鹿島鳥居

■千木の形式

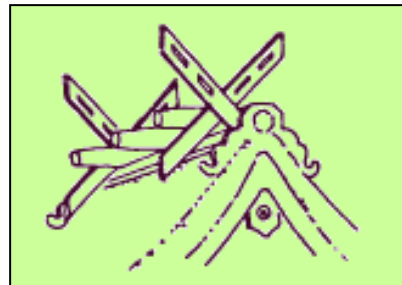
千木は、波風（はふ）板の先端が棟のところで交差し、上に突き出た部分のことです。古くは比木（ひぎ）とも呼ばれていました。千木の始まりは、原始的な日本の建築様式からきていることは確かです。その建築様式を天地根元造りといいますが、この様式は2本の垂木（たるき）を交差したものを2組つくり、建物の前と後ろの端に建て、交差した2点に棟木を掛け渡した簡単なものです。この場合、棟木に接した所から上の垂木は、屋根よりも高くなっています。この高く突き出た部分を千木といったのです



天地根元造り



伊勢神宮・千木
(内削ぎ)



出雲大社・置千木
(外削ぎ)

伊勢神宮に見られる神明造りの千木は、この垂木にあたる波風が伸びたままの古い形式を備えています。これに対して、出雲大社に見られるように、交差した2本の材を棟の上に載せた千木もあります。これを置千木といい、様式的には新しいですが、装飾化されていることはいなめません。現在、ほとんどの神社の千木はこの置千木になっています。

■鯉魚木（勝男木）

鯉魚木は千木と千木との間の屋根の棟の上に、棟に対して直角に並べた木の事です。鯉魚木という名称は、鯉木とも書かれているとおり、その形がカツオの干したものの、つまりカツオ節に似ているところからきたものです。

現在の鯉魚木は、千木とともに装飾的に用いられていますが、本来は棟木（むなぎ）または茅葺き（かやぶき）屋根の防風を目的とした、押さえとして用いられていたものです。

本数は神社によってそれぞれ異なりますが、一般には、**奇数の場合は男神**を祀っている神社、**偶数の場合は女神**を祀っている神社とされています。使用されている本数は2本から10本ぐらいまでです。

ちなみに伊勢神宮の場合、内宮は10本、外宮は9本となっています。そのほか、春日造りの神社では2本、**大社造りでは3本**、住吉造りでは5本、神明造りでは伊勢神宮と同じく10本となっています。

■社号

神社の中でも、規模の大きい神社は大社や神宮と呼ばれ、有名な神を祭神とする場合が多い。

大社は江戸時代までは杵築大社（現出雲大社）、熊野大社（いずれも島根県）の二社が名乗っていたが、明治時代から1945年（昭和20年）までは大社を名乗る神社は出雲大社が唯一であった。

戦後は旧官幣大社、国幣大社、官幣中社の神社の一部26社が名乗っている。なお、天皇や皇室祖先神を祭神とする**神社**を宮と呼ぶことが多く、皇室につながる人物（皇族）を祭神とする神社を**宮**と呼ぶことが多い。1945年（昭和20年）以前は大社・神宮などを名乗るためには勅許などが必要だったが、現在では政教分離により国家、皇室が神社に直接関与しなくなったため、特に許可を受けなくても、大社、神宮を名乗ることができる。



出雲大社

3本のカツオギを載せた本殿の屋根



伊勢神宮

10本のカツオギを載せた本殿の屋根